

科目責任者 越前 宏俊 (薬物治療学教室)

■ 教育目的

病理学は生理学とならび、病態生理学・薬物治療学の基礎を形成する学問である。この科目では、薬剤師が上記の専門科目を学ぶために必要な形態的基盤として多彩な疾患群を学習する。臨床との関係で病理学を学ぶことで薬物治療の基礎を学ぶ。病理所見が理解を深めて、病気の原因を分子のレベルで知り、疾患の発症・進展の仕組みを理解する。治療法の根拠となっている病気のメカニズムについても紹介する。

■ 学習到達目標

1. 形態と機能に基づく正しい疾病観と具体的な疾患イメージを体得する。
2. 薬物療法の基盤になっている病理学知識を理解する。
3. 臨床検査技師国家試験の内容も考慮して講義を構成する。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：シラバスに提示した次回講義分野の予習

復習：当該日の講義の理解を確認する自主学習

■ 授業内容

病理学総論は系統的講義を行う

器官病理学では個別項目で講義を行う。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	病理学総論 1	細胞傷害と組織傷害・治療過程	C14 (1) -2
2	病理学総論 2	炎症	C14 (1) -2
3	病理学総論 3	感染	C14 (1) -2
4	病理学総論 4	免疫	C14 (2) -2
5	病理学総論 5	循環障害	C14 (2) -3
6	病理学総論 6	腫瘍	C14 (2) -4
7	病理学各論	循環器系の疾患	C14 (3) -3
8	病理学各論	呼吸器系の疾患	C14 (3) -1
9	病理学各論	消化器系の疾患	C14 (3) -2
10	病理学各論	肝臓・胆のう・膵臓疾患	C14 (3) -4 C14 (3) -5
11	病理学各論	造血系とリンパ系疾患	C14 (4) -5 C14 (4) -6
12	病理学各論	泌尿器・生殖系疾患	C14 (3) -6
13	末梢神経、筋、骨	内分泌系疾患	C14 (3) -6
14	病理学各論	神経性・骨・筋肉系疾患	C14 (4) -2、3
15	補遺		C14 (4) -4

■ 授業分担者

1-6: 越前宏俊

7-15: 池上洋二

■ 成績評価方法

出席 10%、期末試験 90% で総合評価する。その他、レポートなどあれば考慮する。

■ 教科書

はじめの一步のイラスト病理学 (羊土社)

■ 参考書

CBT 病理アトラス. 金井信行著. 医学評論社, 2007.

Dr. レイの病理学講義, 改訂 2 版. 高橋玲編著/北澤荘平著. 金芳堂, 2012. New エッセンシャル病理学, 第 6 版. 長村義之 [ほか] 編. 医歯薬出版, 2009. いずれも図書館蔵書